

大和政権の時代から政治権力や渡来系氏族と深いつながりがあり、先進地域であった南山城では、いち早く仏教文化も開花しました。高麗寺の創建を通じてその具体相を明らかにしたいと思います。

■日時

2019年 **12**月 **17**日(火)

13時30分～15時(受付13時～)

■場所

京都学・歴彩館 大ホール 定員400名
(当日先着事前申込不要) 無料

■講師

佐伯 俊源 (種智院大学教授)

真言律宗総本山山西大寺清浄院 住職。専門は日本古代史・日本仏教史・仏教福祉学。著作に「叡尊の思想基盤と社会的実践」(『日本仏教学会年報』81、2015)、「玄昉僧正の実像・伝承とその肖像」(『仏教文学』43、2018)他。

飛鳥仏教と南山城
— 高麗寺の創建をめぐる —



※①高麗寺伽藍配置イメージ図 ※②～⑤高麗寺跡出土軒丸瓦 木津川市教育委員会 提供

次年度は【洛西編】を予定しています(令和2年春～)。詳細はホームページ・SNSに掲載します。お楽しみに。

●アクセス: 京都府立京都学・歴彩館 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-29 京都市営地下鉄烏丸線 北山駅徒歩約4分

主催: 京都府立京都学・歴彩館、京都府立大学

お問い合わせ: 京都府立京都学・歴彩館 京都学推進課 075-723-4835